

雨が続いた初秋のようやく晴れた秋セメ開始の日にこれを書いていきます。とはいえ緊急事態宣言下、校舎はがらんとしています。何をするにもコロナの影響で自由な行動ができなくなっただけから一年半以上経ちます。今の一、二年生は未だ数えるほどしか教室に来られていません。大学で出会う友人との交流、サークル、旅行、当たり前前に行き

たはずのことが実現できずにいます。学生相談室ではそんな学生さんの悔しさとも悲しみともつかない、腹立たしいけれども何に怒ればいいのか分からない言葉が聴かれます。三、四年生からは、残りの学生生活の計画が頓挫してしまった焦り

や、もうこのまま社会人になってしまうのかという不安全感が語られます。それも皆たいいてい堂々と愚痴るのではなく、私だけじゃないのは分かっているけどとか、先生達も大変だと思えますけどとか、そんな心配りをしながら控えめに話されます。

ご自宅でのお子様の様子はどうでしょうか。オンライン授業は

ラクそうに見えて実際はとても疲弊し、集中して受講し続けることは難しいと言います。課題はいつもより多く、課題について友達と相談できない苦労もあるようです。元気がない様子や、活気のない様子が見られることはありませんか。せっかく大学に進学させたのにとやるせない思いを抱えておられる親御さんもしら

っしやるでしょう。

学生相談室

だより **114**

カウンセラー 森岡さやか

コロナ禍という初めての事態は「普通だったら」「本来ならば」とそうではなかったはずの今を思わずにはいられません。しかしこれだけ事態が長引くと、もはや非常事態と捉えてやり過ごすことは難しく、この状況でどう生きていくかという思考に世の中がシフトしているようにも感じます。奇しくも今ここで学ぶことになった学生さん達が自分ならではの学生生活を送ることができるよう（しかし手に入らなかつたものを嘆いてもいいのだということも忘れずに）力添えできたらと思っています。